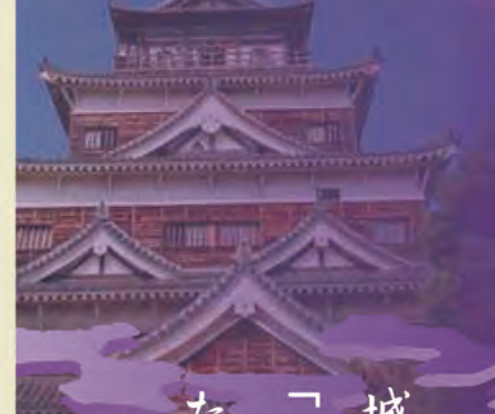


広島城下大絵図

城下
城



城下町を歩くと
「へえ」「なるほど」が
たくさん見えてきますよ。

広島は街は歴史がいっぱい
みんなで楽しく歩いてみませんか
姉妹として、広島城北大絵図・広島城南大絵図があります。

安芸国広島城主



参考文献

- 広島城総合案内 (財)広島市未来都市創造財団広島城 H25 2013
- 広島城絵図集成 (財)広島市未来都市創造財団広島城 H25 2013
- 結景園山荘図の世界 (財)広島市文化財団広島城 H17 2005
- よみがえる日本の城7 広島城福山城 学習研究社 H16 2004
- 二葉の里歴史の散歩道 広島市東区区政課興研 H16 2004
- 名城を歩く19 広島城 PHPI研究所 H16 2004
- 発見!広島城お城ってなあに? (財)広島市文化財団広島城 H15 2003
- ひろしま切絵図の世界 (財)広島市文化財団広島城 H14 2002
- ひろしまへそガイドブック〜65と歴史 (財)広島市ひとまちネットワーク広島市中央公民館 H12 2000
- 広島城下町物語 (財)広島市歴史科学教育事業団広島城館 H8 1996
- 歴史群像名城シリーズ9 広島城 H7 1995
- 二葉みちるへ 広島市二葉公民館 H5 1983
- 図説広島市史 広島市(広島市公文書館) H1 1989
- 白神社社記 白神社 S63 1988
- 広島県地名大辞典 角川書店 S62 1987
- 広島県の地名 平凡社 S57 1982
- 新修広島市史 広島市 S33~S37 1958~1962
- 知新集 芸藩通志

協力団体

広島県縮景園
(公財)広島市文化財団
(文化財課・広島城・中央図書館)

編集

広島城下町案内衆
(公財)広島市文化財団
中区公民館(中央・竹屋・吉島・舟入)
担当:中央公民館
〒730-0005
広島市中区西白鳥町24番36号
TEL:082-221-5943
FAX:082-221-5118
E-mail:chuo-k8cf.city.hiroshima.jp

発行
平成19年3月 初版
平成28年3月 改訂版
平成31年3月 増刷
広島市中区役所市民部地域起し推進課
〒730-8587
広島市中区国泰寺町一丁目4番21号
TEL:082-504-2546 FAX:082-541-3835
E-mail:na-chiik1@city.hiroshima.lg.jp



「広島城下絵屏風」右隻:広島城所蔵

広島城

天守閣

五層五階の天守に東と南に三層三階の小天守を渡櫓で結んだ壮々なもので、慶長4年(1599)に落慶法要が行われました。天守は二層の入母屋の大屋根の上に三層の櫓を載せた望楼型で五層には廻縁を巡らせていました。明治初期に小天守などが取り壊され、残された天守は昭和6年(1931)に国宝に指定されましたが原爆で破壊しました。現在の天守閣は昭和33年(1958)に小天守のみが鉄筋コンクリート造りで再建されました。



本丸

東西約187m南北約236mの長方形で北側の一段高くなった本丸上段には城主の居館や藩政を行う本丸御殿が立ち並び、北西隅には天守閣がそびえていました。南側は馬場や殿、八千代蔵とよばれた米蔵や米蔵役所をはじめ銀蔵、鉄砲蔵、武器蔵などの蔵が並んでいました。明治4年(1871)の廃藩置県により、本丸御殿は広島県庁に一時利用されました。明治27年(1894)に明治政府は、本丸御殿跡に広島大本營を造営し、帝国会議が南の大手廓内で行われ、一時首館機能を持ちました。

二の丸

本丸の正面出入口である中御門の前にあり土櫓で本丸と結ばれています。本丸の守り固め、また出撃する時には兵を集める拠点ともなり馬出とも呼ばれます。原爆で消失した表御門、平櫓、多間櫓、太鼓櫓は平成元~6年(1989~1994)に復元されました。

三の丸

内堀の外側には三の丸、東側に竹の丸、南に内大手郭が大きく取り囲み、家臣の屋敷や役所がありました。南の中央には大手門が、西には西出丸が配置されました。西南隅には明和元年(1764)に三之丸稲荷神社が建てられました。明治以降も海田方面に通じる重要な道路でした。現在はバス停の京口門となり、公園の入口に八丁堀の石碑がひっそり建っています。

京口門

広島城主はしばしば京都への往来がありました。上京の折には、京口御門から出発したいわれています。行列の旗振りの名残から、旗町(今の鞆町)が形成されました。明治以降も海田方面に通じる重要な道路でした。現在はバス停の京口門となり、公園の入口に八丁堀の石碑がひっそり建っています。

外堀

大手郭の東側には南北方向に八丁堀が掘られ、南側にも東西方向に外堀が掘られていました。防長二国に転封された毛利氏に代わり福島正則は河川を利用して防備を固め、北側の川をせき止めて北堀を造り、西側は本川を自然の堀として堤防上には石垣を築き13基の櫓が並んでいました。南の外堀には一丁目御門、真鍋御門、立町御門が配置され、東の八丁堀には京口御門が置かれました。外堀は明治42年(1908)から二期に分けて埋め立て工事が行われ2年後に完成し、また、西塔川も大正元年(1912)には埋め立てられ、南側の外堀と西塔川の埋立地には市内電車の軌道が敷設されました。

縮景園



泉邸ともよばれる浅野家の別邸の庭園で、元和6年(1620)から浅野長晟の家老で茶人として知られる上田宗箇の指揮で築庭されました。天明3~8年(1783~1788)に浅野家七代藩主の重胤は、京都の庭師清水七右衛門を招き大改修を行いました。縮景園の名前は幾多の景勝をまとめて表現した事からとか、中国の西湖の景観を縮景したからとか言われています。中央に濯纒池(たぐいち)を掘って島を浮かべ、周囲に山を築き、渓谷、橋、茶室、四阿(あずまや)などを巧みに配置し、それを園路でつないで回遊できるようにしています。池水は京橋川から引き入れ、干満の差で淡水と海水が混ざっています。

跨虹橋(こうきょう)

天明の改修で清水七右衛門が築造しましたが、藩主の重胤は最初の橋の出来栄に不満をいだき、築き直しを命じて天明6年(1786)に竣工しました。濯纒池に浮かんだ景勝を鑑賞することを目的に造られた橋で、全国でも数少ない石橋の代表例です。

流川・薬研堀

縮景園から南に流れ出る川でしたが現在は薬研堀とともに中四国最大の歓楽街となっています。

薬研堀

鞆町から南に流れる小さな堀です。堀の形が薬草などを粉にする道具の薬研になぞらえて名前がつけられました。

羽子板堀

広島城を巡る堀の水は本川(旧太田川)から羽子板堀へと取入れられました。羽子板の形をしていたので羽子板堀と呼ばれました。ここから入った水は内堀や中堀、外堀などを流れて堀川から平屋川に流れていました。

街道筋の橋

城下の川は天然の堀に見立て軍事的な目的で橋はほとんどかけられていませんでしたが、西国街道には、猿猴の伝説のある猿猴川にかかる猿猴橋、京都への出発地である京橋、毛利元就の子の元康が架けたとされる元安橋、猫屋敷という屋号の商人が架けた猫屋橋(本川橋)、天満橋(小屋橋)、出雲石見街道には横川橋などの橋が架けられていました。

中の欄橋

金座街から中の欄に至る旧堀川・平田屋川を渡る当時の石橋の遺構が残っています。現在も発掘すれば遺跡として広島堀川筋の状況がわかりますが、江戸時代当時の石垣等も大切に地下に保存されています。

裏木戸

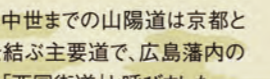
小路には武家屋敷の表門が、川辺には裏木戸が置かれました。裏木戸では日常の生活として洗濯等の他に、小舟が雁木造りの石段から生活物資を陸揚げし、反対に糞尿を船に載せていました。川や海を利用した水運に頼っていた当時の生活遺産です。



「広島城下絵屏風」左隻:広島城所蔵

里程元標

江戸時代以来の里程の基点で、これから西国街道にそって、東西に一里塚が置かれ、上方や江戸や九州へと結ばれていました。また、元安橋のもとには江戸時代に制札場(高札場)が置かれ、情報交換の場として利用されました。



元安橋の東詰に埋蔵に隠れてひっそりと佇んでいます。

西国街道

古代から中世までの山陽道は京都と太宰府を結ぶ主要道で、広島藩内の山陽道を「西国街道」と呼びました。毛利氏の時代には広島城の北側を通っていましたが、慶長5年(1600)に福島正則が城主になり、街道を城下町の南側に引き入れて東西に貫通し、沿道を町人町としました。



浅野光晟の時代の寛永10年(1633)の幕府巡見使の視察や寛永12年(1635)の参勤交代制度の確立などを契機に街道筋の整備が大きく進められました。やがて、西国街道沿いにはたくさんの商店が並び、中でも元安川と本川に挟まれた中島本町は太田川の上流や瀬戸内海からの物資が集まり広島城下随一の繁華街となり、現在の本通も西国街道のメインルートで、横町、革屋町、播磨屋町、平田屋町と街道沿いに大きな老舗が軒を並べる商業地として栄えました。また、西国街道に沿う広島宿については、本川~京橋川間での他領の人の宿泊が大名以外は許されていなかったため、白神一丁目(現出雲石見)が、東郊の愛宕町界隈に東宿が、西郊の堺町界隈に西宿が開かれ、東60匹・西40匹の伝馬が置かれました。

出雲石見街道

西国街道の堺町から北に分かれ、太田川・古川に沿って西部に向かいます。可部で根之谷川沿いに上根峠に向かい、吉田、三次を経て赤名越で出雲大社への街道と、南原川沿いに可部峠、本地、中山を通って石見の大森銀山に向かう街道に分かれます。萩藩では毛利元就の墓参りに吉田郡山に向かう際に利用され吉田往還と呼ばれました。



分岐の道標となった空鞆養生神社の常夜灯

広島城下の大手筋

白神筋・京橋筋

広島城大手郭の南側には西から一丁目御門・真鍋御門・立町御門があり、西国街道に向かって街路がありました。一丁目御門からは大手筋である白神筋が南に延び、東には京口御門から京橋に向かって鞆町・橋本町を通る京橋筋がありました。藩主の参勤交代には主に白神筋が利用され、鷹野橋沖から御座船で瀬戸内海を航行して大坂に向かい、大坂からは陸路で江戸に向かっていました。



白神筋

京橋筋

広島川の筋

水運

城下の経済は水運に支えられていました。川舟による水運は太田川の上流域と広島城下を結ぶ重要な役割を担い、広島築城時には建築資材を運び、城下町の発達にともなって年貢米を始め木炭・紙・野菜などの物資が運ばれ、城下からは糞尿などが運ばれました。「芸藩通志」によると城下には207隻の舟があったとされます。

渡し

街道には橋が架けられていましたが、その他の場所では渡し舟が利用されました。人や馬、荷物などを渡し賃を取って対岸まで渡っていました。城下には空鞆町と城郭西側の小堤町を結ぶ現在の空鞆橋付近にあった「空鞆の渡し」、常楽橋付近で東白鳥町と明星院村を結んでいた「明星院渡し」など、いくつかの渡しがありました。



空鞆の渡しの碑



広島東照宮



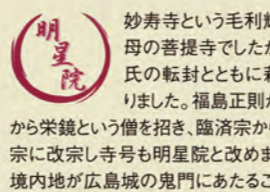
白神社



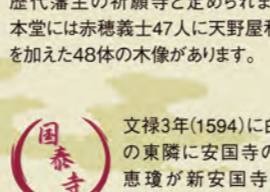
羽子神社



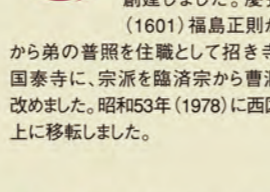
出雲石見



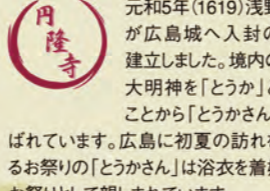
明星院



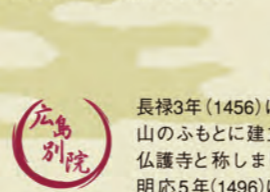
国春寺



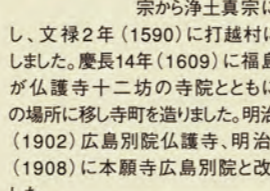
元隆寺



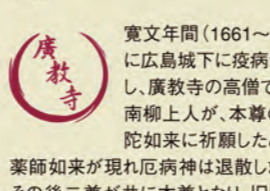
広島別院



長福寺



寛文年間



廣教寺

水の都広島城下の縄張

広島城下町絵図:正徳年間(1711~1716)



広島城所蔵

正徳年間(1711~1716)の城下町の様子を描いたものです。城下町が太田川の三角州に発展しているのがよくわかります。赤く塗られているのは寺院で、白く描かれた武家屋敷は広島城の周りを囲み、黒く塗られた町人町は城下の南側の西国街道や西側の出雲石見街道、物資の荷揚げされた川沿いに集まっています。

天和町切絵図:斜屋町



西国街道

切絵図は税金の額の基準にするために、城下を町人町ごとに作られました。家の間口によって税がかけられていたので間口が狭くて奥行きが長い家が一般的でした。この切絵図は天和3年(1683)の斜(ちぎ)屋町を描いたもので、中央の西国街道に沿って町家が並び、東西の入り口には町門があります。東側には薬研堀、西側は流川で北側と南側には生活用水の排水のための水道で囲まれていました。

雁木

雁木は、船着場として使われていた護岸の階段で、潮の満ち引きなどによる水面の変化に関係なく、船を接岸できるように工夫されたものです。城下には多くの雁木が設けられ、太田川上流や瀬戸内の島々から多くの船が集まり、様々な生活物資が荷揚げされていました。



橋木の太雁木

歴史年表

- 天正17年 1589 毛利輝元、広島城築城の嶽御ちをを行う。
- 天正19年 1591 毛利輝元、広島城に入城する。
- 慶長5年 1600 関ヶ原の合戦。毛利輝元、周防・長門2カ国へ滅封され、尾張から福島正則が安芸・備後へ移封。広島城主となる。
- 元和元年 1615 幕府が一国一城令・武家諸法度を出す。
- 元和5年 1619 幕府、無断修築を理由に福島氏を改易する。代わって紀伊より浅野長晟が入城。
- 元和6年 1620 長晟、上田宗箇に縮景園の築造を命ずる。
- 宝永6年 1709 橋御門など広島城の主要な三門の通行規則を定める。
- 宝暦8年 1758 広島城下で大火発生。櫓も類焼する。
- 慶応3年 1867 大政奉還。
- 明治4年 1871 廃藩置県。
- 明治8年 1875 広島城内に練兵場が設置される。
- 明治44年 1911 広島城外堀の埋め立て工事が終了する。
- 昭和20年 1945 原子爆弾により、天守・太鼓櫓・表御門・中御門などが壊滅する。
- 昭和33年 1958 広島復興博覧会を開催。広島城天守が鉄筋コンクリートで外観復元される。
- 平成6年 1994 広島城二の丸の表御門・平櫓・多間櫓・太鼓櫓の復元が完成する。

広島城下町今昔物語

普段なにげなく通っている場所も、城下町であった時代は、今は別の顔がありました。当時の様子を想像して通るのも楽しいかもしれません。

太田川の河口は三角州(デルタ)で、広島城築城以前は五ヶ村と呼ばれる村落がありました。山間の吉田郡山城に居住していた毛利輝元は、この地が水陸交通の要衝であることに着目し、天正17年(1589)に五ヶ村の一角に城地を定めました。当時は低湿でしかも地盤も定まらず難工事を余儀なくさせられたが、天正19年(1591)に輝元は112万石余をもって入城しました。

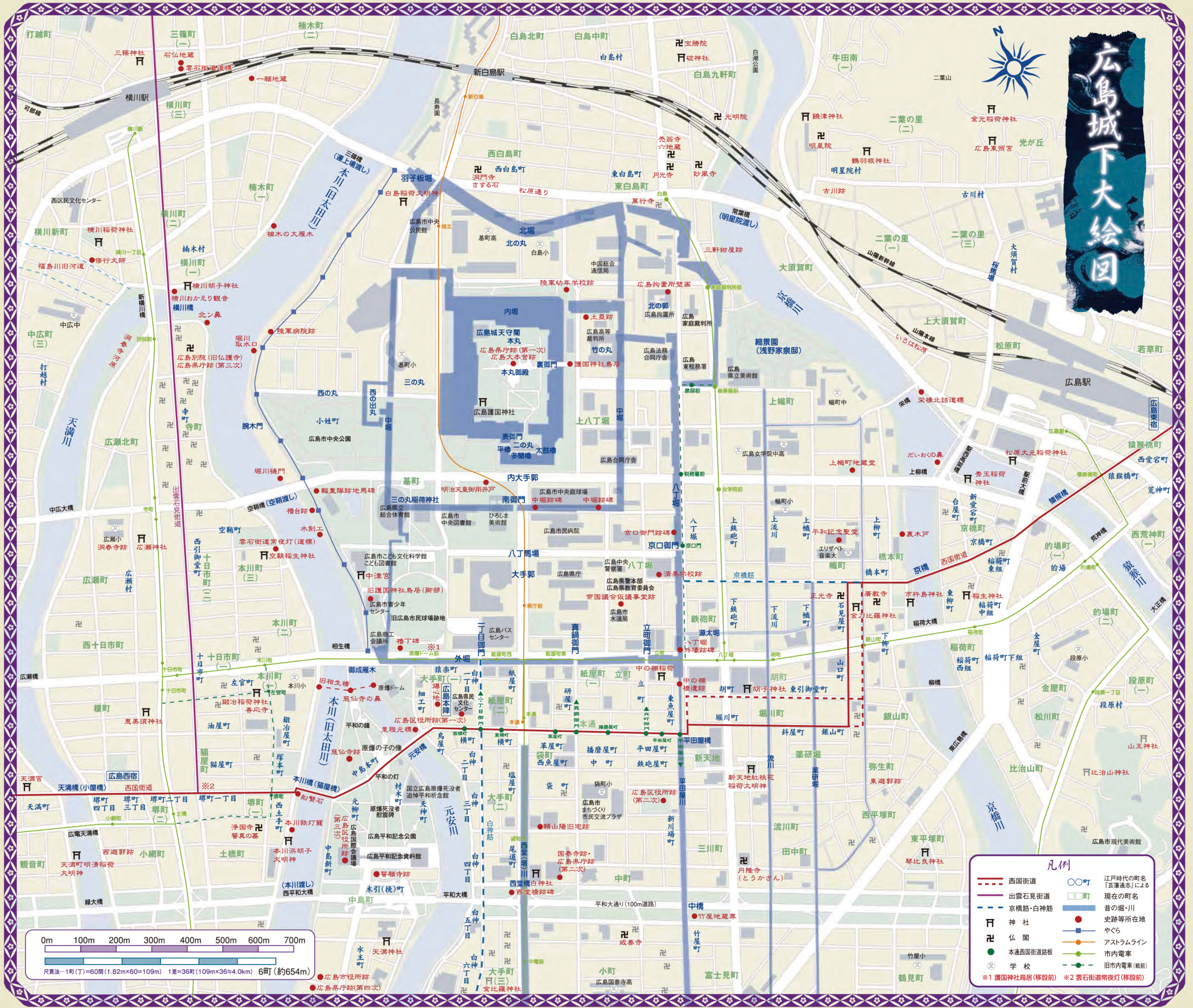
城郭の縄張は京都の「聚楽第」を手本に、城下の町割は「大坂城」を真似たといわれます。城下町の建設は大手門(一丁目御門)より南へ延びる白神筋を基準に行われ、太田川や運河も南に通じていたために、町並みは南北に沿った「縦町型」となりました。城郭を取り囲むように武家屋敷が配置され、町人町は南西部に設けられ城下町の骨格ができました。

関ヶ原の合戦後の慶長5年(1600)に49万石の大名として入城した福島正則は城下町の整備をさらに推し進め、城郭の北を通っていた西国街道を南に移し東西に貫通させ、街道に沿って町人町は拡大し町並みは東西方向の「横町型」となりました。また堺町から北に向けて出雲石見街道も分岐し、東西の寺町に寺院を集中配置し治安維持に利用されました。元和5年(1619)福島氏改易後に42万石の城主となった浅野長晟から12代にわたって広島藩は浅野家の時代が続きました。商業や交通の発達などにより町並みが完成し、干拓により城下町南に伸び中国・四国・九州で最大級の城下町となりました。

明治に入り城郭が本来の役目を終えると、城下町は近代化の波を受け入れ、陸軍の施設や練兵場の設置、外堀の埋立てなどによって都市の景観は大きく変わりました。被爆後の復興事業や経済の発達などで現在の町並みとなりました。

この城下町絵図で広島城や縮景園をはじめ、本通や本川など現在に残る城下町の面影を眺め歩いてみましょう。

広島城下大絵図



城下の町名あれこれ

今の消え去った昔の町名は、その時代にいきいきと暮らす様子が目に浮かぶようです。城下の町人町は、白神・中通・新町・中島・広瀬の五つの組に分けられそれぞれ大夫や番を置いて町方の行政を行っていました。

各町の表記は「芸藩通志」文政8年(1825)による。

白神組		
白神一丁目	白神六丁目	細工町
白神二丁目	尾道町	横後の西横町
白神三丁目	塩屋町	東横町
白神四丁目	紙屋町	鳥屋町
白神五丁目	猿楽町	

中通組		
平田屋町	袋町	新川場町
播磨屋町	研屋町	竹屋町
革屋町	立屋町	東白鳥町
西魚屋町	東魚屋町	西白鳥町
中	鉄砲屋町	

新町組		
堀川町	石見屋町	稲荷町下組
胡引御堂町	橋本町	稲荷町中組
東引御堂町	京橋町	稲荷町東組
斜(ちぎ)屋町	新愛宕町	猿猴橋町
銀山町	東柳町	
山口町	稲荷町西組	

中島組		
中島本町	天神町	中島新町
材木町	木引(挽)町	元柳町

広瀬組		
塚本町	堺町四丁目	西引御堂町
堺町一丁目	猫屋町	鍛冶屋町
堺町二丁目	油屋町	西土手町
堺町三丁目	十日市町	寺町

注: 川がらえは、土砂の流入により川床が埋まり水運に支障をきたすため重要な作業でした。文久2年(1862)に行われた「本川かわがらえ」は、5月7日~9日、11日~13日の各日に「砂持加勢」と称して50余りの町が日ごとに分かれて山車を立てた行列を繰り広げました。その様子は「広島本川川がらえ町加勢図」にのこされています。